

都市再生整備計画 事後評価シート

和気駅周辺地区

平成26年3月

岡山県和気町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	岡山県		市町村名	和気町		地区名	和気駅周辺地区			面積		17.9ha		
交付期間	平成20年度～平成24年度		事後評価実施時期	平成25年度		交付対象事業費	1,197百万円	国費率	0.4					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路：県道と気停車場線・町道安養寺橋駅前線・町道明治通り線・和気駅北口交通広場、地域生活基盤施設：駅西ポケットパーク・案内板											
		提案事業	地域創造支援事業：和気駅南北自由通路整備事業・アーケード取扱い事業											
		事業名												
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路：町道駅前中央線	全体工程等協議の結果、事業区域内での生活に支障をきたすため、今回工期内での整備を取止めたもの				影響が出るため、指標調査箇所を変更し再調査を実施した						
			地域生活基盤施設：和気駅北口交流広場	規模を縮小し、和気駅北口交流広場内の緑地帯へ移行したもの				影響なし						
			地域生活基盤施設：駅東ポケットパーク	必要面積の確保が困難となったため取止めたもの				影響なし						
		提案事業	地域創造支援事業：足湯施設整備事業	和気駅北口交流広場規模縮小に伴い、整備必要面積の確保が困難であるため取止めたもの				影響なし						
			地域創造支援事業：旧大国家住宅の利活用計画策定調査	他事業で調査を検討中であったため取止めたもの				影響なし						
	新たに追加した事業	基幹事業	高質空間形成施設：通路シェルター	和気駅北口交通広場整備の中で整備予定であったが、高質空間形成施設に該当するため、交付対象事業を変更したもの				影響なし						
提案事業		事業活用調査：事業効果分析	計画期間内での目標達成に向け、中間段階でのモニタリング及び、事業完了時のモニタリングを実施したもの				影響なし							
交付期間の変更	当初	平成20年度～平成24年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響										
	変更	なし												
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期	
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	駅の乗降客数	人／日	2,800	H19	3,000	H24		2,688	×	あり なし	ETC割引及び人口減少による通勤・通学者の減少が主な要因と考えられる。	平成26年4月頃	
	指標2	和気駅前市街地内の歩行者通行量	人／12h	417	H21	490	H24		696	○	あり なし	老朽化アーケードの撤去及び和気駅北口交流広場の整備により暗いイメージが一新された。		
3)その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期	
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	県道と気停車場線の自動車（二輪含む）交通量	台／12h	564	H19				723			駅アクセス道路の拡幅（歩道新設）により、和気駅北口（改札）へのアクセス性、安全性の向上によるもの		
4)定性的な効果発現状況	和気アルプス登山を目的とする来町者は、JRを利用することが多く、本事業において整備された町道と気駅前線（和気駅北口交通広場）内広場を集合場所として多く利用されている。 和気駅の所在する学区で組織する本荘地区助け合いのまちづくり協議会や、地元商店会が主体となり、駅前での各種イベントを開催。今後も継続的に開催予定。 南北自由通路等景観・環境を維持すべく、ボランティア団体が定期的に清掃活動を実施。													
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等			
	モニタリング	基幹事業 道路：町道駅前中央線の削除に伴い、指標調査箇所の変更に係る交通量調査を中間段階で実施し、事業完了段階で最終のモニタリングを実施した。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					●	計画期間中に事業効果を確認することができた。今後ソフト面での効果を確認すべく、定期的にモニタリングを実施。		
		住民参加プロセス	子識程駅有・町内商店会代表有・町民代表有等で組織するまちづくり推進協議会でワークショップを行い、都市再生整備計画策定及び和気駅北口交通広場整備について協議検討に取り組んだ				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					●	まちづくり交付金事業推進協議会副会長には、評価委員会の委員として引き続き参加していただく。	
			持続的なまちづくり体制の構築	・旧大国家住宅の活用 ・旧中国銀行和気支店活用特別委員会の設立				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					●	ハード事業からソフト事業に転換し、地域の活性化に向け引き続き協議・検討を行う。

様式2-2 地区の概要

和気駅周辺地区（岡山県和気町）都市再生整備計画事業の成果概要										
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値		
大目標：和気町の玄関口である和気駅周辺地区の交通結節機能の向上による高齢化社会に対応した生活交流拠点の創造 目標1：和気町の玄関口にふさわしい賑わい形成 目標2：安全快適な歩行環境整備による市街地内の回遊性・滞留性の確保 目標3：和気駅南北市街地における役割分担及び連携による鉄道利用者の増加促進		駅の乗降客数	単位：人／日	2,800	H19	3,000	H24	2,688	H24	
		和気駅前市街地内の歩行者通行量	単位：人／12h	417	H21	490	H24	696	H25	
		南北自由通路の歩行者・自転車交通量	単位：人／12h	508	H19	600	H24	952	H25	
		県道と気停車場線の自動車（二輪含む）交通量	単位：人／12h	564	H21			723	H25	
まちの課題の変化		・道路事業及び自由通路整備事業により交通結節点・交流拠点としての整備効果は確実に向上しており、今後、ハード整備からソフト事業へ転換する。 ・和気駅前市街地の歩行者通行量増加と目的を達成したところではあるが、事業用地確保に伴い商業施設の移転に伴い集客施設が減少する形となってしまった。 ・和気駅前市街地（町道明治通り線）について、駅へのアクセス性を向上することで、車両の進入が増加し、歩行者の安全性が低下する形となっている。								
今後のまちづくりの方策（改善策を含む）		・旧中国銀行和気支店活用特別委員会を主として、空き店舗利活用の推進を図る。また、来年度から地元和気閑谷高校へ地域おこし協力隊員を派遣し、生徒と共に駅周辺の活性化等をテーマに解決策を実践する活動に取り組む。 ・和気駅（鉄道）利用促進及び便数の維持を目的として、町内だけではなく、近隣市町へ和気駅南駐車場パーク＆ライドを引き続き推進を行う。また、駅バリアフリー化に向けた利用者促進であることを明記し、広報活動を実施。 ・和気駅前市街地（町道明治通り線）について、バンク等設置することで、車両の進入を減少させることで歩行者等の安全性を向上させる。 ・回遊性向上の核となる資源（国指定重要文化財 旧大国家住宅）として、毎年度活動計画を策定し実施している状況であるが、老朽化に伴い公開回数も増やす事が困難な状況である。現在、文化庁等と改修に向け協議を進めており、これに併せ、改修後の計画、国際教育文化フォーラム等の開催を検討中である。								